

Space Traveling Museionに必要な Curation System

～宇宙旅行科学博物館経営への市民知の応用～

Curation System require for Space Traveling Museion

～Application of citizen knowledge to the management of space science museum～

， ○萩原孝信¹， 森大樹²

Takanobu Hagiwara¹, Hiroshi Mori²

Abstract: : The practical activities of the community museum are already beginning to be practiced in various places in Japan, and it is becoming an era when we can catch some of the results of citizen participation museum creation life etc. in general books and papers etc. However, the collaboration of exhibits and the like between each "community museum" is becoming a key to the revitalization of the development of citizen's intellectual activity in this field in the future. Basic approach to promote collaboration between region-oriented curators and citizens of each region for exploring collaboration with existing traditional museums and practical activities supporting community museums in each region of the world As a tool to easily understand matters, "Research on the importance of Community Museion's Curation System comprehensive system" It is approaching the necessary period. This research has the function of community museion as a place to learn the preliminary pre - education system for space travel and under preparation that it is thought that many of ordinary citizens will experience within the next 100 years " Citation System and the way of forming that Vision as a case study of the citizen type space museum creation activity and the museum management science is to propose a scenario as part of the necessary business plan It is a research note.

1. はじめに

伝統的な科学博物館内には宇宙科学の展示は存在しているが、その宇宙科学の知識や保存の方法に JAXA が「はやぶさ」にて実践した Curation System の方法を援用した事例はまだ存在している研究報告はない。宇宙科学の発展により、一般市民が宇宙旅行を試行する傾向は今後はますます増大するとの書籍はすでに存在している。本試論は、一般市民が宇宙旅行を謳歌する時代になるの現代にあってもすでに、市民が体得する無数の情報等を市民知を活用する Space Traveling Curation System (以下単に、STC という) として情報収集とその解析がおこなうことの重要性に着目する。市民が今後宇宙旅行を目指す際に必要となる宇宙科学を学ぶ体験等を貴重な事前教育体験としてシステム化しながら、無数ともなりうる市民の体験的情報を集積をする重要性と仮説的応用の取組の方法を JAXA がおこなっている宇宙内探索物集積と分析方法である Curation System をトリガーとして参考にしながら、Space Museion 経営学の観点からみた提案を事業企画書として提案することを目的としている。

1 : 日本大学理工学部科目等履修生 (学芸員課程) 2 : 日本大学理工学部大学院修士課程卒 (建築)

2. STC とその Global 連携の必要性

Space Museion 経営学の分析方法には、既存のコミュニティーミュージアムの実践活動を分析することで、市民がどのような博物館経営に関与することが重要であることへの仮説を構築することが可能である。すでに日本各所にて実践されはじめており、一般書籍や論文等にて市民参画型ミュージアム創生活等の成果の一部を垣間見ることが出来る時代になってきている。しかしながら、それぞれのコミュニティーミュージアム同士の展示物等連携は今後のこの分野での市民知活動の発展の活性化の要となりつつある。既存の伝統的な博物館との連携の模索や世界各地にあるコミュニティーミュージアムそれぞれの地域の特色を支える実践活動に地域指向の学芸員と各地域の市民同士の連携を促す一つの構想が STC であるとの仮説を構築する。市民による宇宙旅行の体験解析の重要性は、人類が月に到着してからすでに 50 年の歳月がかかっているが、その間の宇宙科学の成果を一般市民は一つの現象としての展示しか見ることができない。しかしながら、今後 100 年以内に人類は一般人を含めた宇宙旅行ばかりでなく、火星への移住までの視野にいた宇宙科学開発をすでに実践しはじめている。さらに驚くべきことはその市民レベルの宇宙科学開発に参加している人は、科学者のなかでもきわめて限られた人間が宇宙飛行士をして宇宙体験ができるのが実態であることを市民知としては注目する必要がある。特殊訓練や宇宙科学教育を 10 年ほど体験ができる人間の使命と、まったくの素人が 10 日ほどの事前体験にて宇宙旅行を体験する実感の違いは現時点においても明白違いが存在していることは否めない。



(図—1—)

3. 市民の宇宙旅行への運輸手段としての Hybrid Airship と Hybrid Space Elevator の使命

人類が地球をはなれて宇宙へ進出するの仮説を提案したロシア人 E.C.ツルスキーの宇宙科学の研究であった、ロケット、硬質飛行船、宇宙エレベーター、イオンエンジン等は、徐々に実現しつつある。今後は一般人が宇宙旅行を楽しむ時代に必要となるのは、Hybrid Space/Airship と Hybrid Space Elevator になるのは今後の宇宙科学を進化を促進する運輸手段となることは多くの識者の見識である。これまでの宇宙ロケットがどのくらい経済的で快適な宇宙旅行が実現できるようになるのか、あるいは、図—1—にあるような宇宙エレベーターと成層圏飛行船との連携による宇宙旅行が実現できるようになるのかは今後の一般市民の参加を促せる Curation system と市民知の連携が大きなファクターになることを現実としてとれる事前的学習のシステムが必要となる

5. 参考文献

- [1] 「宇宙旅行はエレベーターで」ブラッドリー・C. エドワーズ等、(オーム社) 2013年
- [2] 「宇宙旅行入門」高野 忠、日本宇宙旅行協会等、(東京大学出版会) 2018年
- [3] 「Curation:キュレーション」スティーブ・ローゼンバウム (プレジデント社) 2011年